

## 学校での取り組みについて … 今までも、これからも必要なこと

これまでの分析で述べてきましたが、これまで行ってきた教育実践は、今までも児童・生徒に必要な力の育成につながっていました。

これからについても、これまで培ってきた授業実践をもとに、児童・生徒の現状と課題を把握することで、よりよい教育につなげていくことが大事です。

児童・生徒の質問紙から、安心して取り組める学習環境が基盤としてあることも分かりました。教師と児童・生徒との信頼関係、生徒同士の間人間関係について、日々の実践の中で築いてきたことが、質問紙の結果に表れています。

そのような学習の基盤を作っていくことと同時に、やはり、授業においてこれからの社会で必要な力をつけさせていくことが大事です。そのために町内全ての学校で校内研究を通して授業改善に向き合ってきました。その実践が結果として出てきていることは確かです。

国語の分析で学びっ子推進委員会での協議において出てきた書くことについての課題は、国の見解<sup>12</sup>と同じであり、学力・学習状況調査はそれをもとに作成されますので、そのような意味でも、校内研究の授業改善への取り組みは、時代のニーズと合致しているといえます。

これまでの教育委員会の取り組み、学校での取り組みについては、平成28年度の分析に詳細があり、今後も継続して取り組んでいきますが、ここでは、分析結果から今年度の重点について述べていきます。

12【書くことを含めたこれからの学びについて】「我が国の子供たちはどのような課題を抱えているのであろうか。学力に関する調査においては、判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べたり、実験結果を分析して解釈・考察し説明したりすることなどについて課題が指摘されている。」「視覚的な情報と言葉との結びつきが希薄になり、知覚した情報の意味を吟味して読み解くことが少なくなっているのではないかと指摘もある。」

「文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である。」「2030年とその先の社会の在り方を見据えながら、学校教育を通じて子供たちに育てたい姿を描くとすれば、以下のような在り方が考えられる。」「理想を実現しようとする高い志や意欲を持って、主体的に学びに向かい、必要な情報を判断し、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができること。」

「対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えとともに、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めたり、集団としての考えを発展させたり、他者への思いやりを持って多様な人々と協働したりしていくことができること。」「変化の激しい社会の中でも、感性を豊かに働かせながら、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていくことができること。」「指導の目的が「何を知っているか」にとどまりがちであり、知っていることを活用して「何ができるようになるか」にまで発展していないのではないか。」「子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができるようにするためには、子供たちが「どのように学ぶか」という学びの質が重要になる。」（「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」より抜粋）

## ○ 基礎・基本の習得について

授業での学習内容の習得については、その授業でつけさせたい力をはっきりさせることが大事です。教えなくてはいけない部分を確実に押さえ、確認・共有し、また、授業の最後にはしっかりと振り返りを行い、「何を」「どのように学び」「何が分かり」「何ができるようになった」のかを自分自身で認識する力をつけていくことが大事です。

### 課題

これまでにも取り組んできたが、より重点的に今後取り組みたいこと

- ・ 振り返りをしっかりすることで、その授業で身についたことを確認する
- ・ 「何を」「どのように」振り返るかを明確にする  
(学習内容の習得・習熟について大きく影響する)

授業内での学習内容の定着が難しい場合には、宿題等でその内容の確認をします。現在、小学校では宿題を習慣化していますので、そのよい習慣を中学校でも引継ぎ、学習内容の習得・習熟につなげていくことが大事です。

また、予習や復習も、授業の進み具合、理解度に影響します。教科書を読むことも予習です。予習と復習については、教師から具体的な内容を伝えることが必要です。

### 課題

これまでにも取り組んできたが、より重点的に今後取り組みたいこと

- ・ 小学校で定着した宿題の習慣を中学校でも引き継ぐ
- ・ 家庭で予習や復習をする習慣を定着させる  
(予習・復習については、「何を」「どのように」を具体的に児童・生徒に伝えていく)

## ○ 「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業について

「主体的・対話的で深い学び」を目指す上で、その基盤となる活動について、児童・生徒質問紙の結果を見ていきます。

国語の授業で目的に応じて資料を読み、 自分の考えを話したり、書いたりしていますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	57.3	69.4
	県	67.8	62.3
	国	68.0	62.7

国語の授業で意見などを発表するとき、うまく 伝わるように話の組み立てを工夫していますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	51.5	62.9
	県	63.0	56.7
	国	63.4	55.6

国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの 理由が分かるように気を付けて書いていますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	70.3	73.5
	県	74.7	65.4
	国	74.8	65.9

算数・数学の問題の解き方が分からないときは、 諦めずにいろいろな方法を考えますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	76.7	78.3
	県	79.3	72.5
	国	81.1	73.5

算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そ のわけを理解するようにしていますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	79.2	75.8
	県	82.0	71.6
	国	82.6	72.1

算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が 分かるようにノートに書いていますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	81.1	86.1
	県	85.8	80.5
	国	86.0	81.3

「主体的・対話的で深い学び」を実現する上で、「目的に応じて必要なことを選択する」「それについて自分の考えを持つ」「みんなで話し合うために伝え方を考える」「共有したことを自分の考えと照らし合わせてまとめる」などの活動が必要です。これらの活動をより活発にするために各校の校内研究では授業改善の意識をしっかりと持つことが大事です。

この調査で分かることは限られていますが、その中でもはっきりしているところから授業改善に向けて取り組んでいくことはできます。そのような点でも、これまでも課題に挙がっている「書くこと」については、国語だけでなく、算数・数学についても同様に言えることです。この「書くこと」について意識をすることで、確実に授業での取り組みが変わっていきます。

またそれとともに日常の学習においても、児童・生徒それぞれのできることに、できるようになりたいことについて、教師の丁寧な見取りをもとに、一人一人に適切な言葉かけをすることが、児童・生徒の学習への意欲を引き出していくことにつながります。

**課題**

これまでにも取り組んできたが、より重点的に今後取り組みたいこと

**目的や意図に応じて必要な情報を取り出して書くこと**

**集めた情報を根拠にして自分の考えや意見を書くこと**

「書くこと」は、大人にとっても難しいことです。自分が伝えたいことをぴつたりと表現できるようになるには練習が必要です。指導をする教師以上に子どもたちはできるようになりたいと思っています。しかしながら、できるようになりたい、書けるようになりたいというイメージは、自分が書いている姿を映像として見ているように、大まかな全体像としての捉えになっていることがあります。教師としては、具体的に何を書くか、何をみて書くか、どこに気をつけて書くか、何のために書くか、どのように書くか等、具体的な表現のイメージを伝えていくことが大事です。児童・生徒の実態に応じて、一つ一つを適切に指導することで、確実に学んだとおりに書けるようになります。その成果が教師がイメージするものと、また、児童・生徒がイメージするものと同じであったなら、教師としてこれほどうれしいことはありません。私たちは児童・生徒の成長を目指して、日々の教育活動に取り組んでいます。

ここで大事にしていきたいことは、教師が児童・生徒になってほしい姿を具体的にイメージすることです。「どのように書いてほしいか」については先述した課題にあります。教師が学年や児童・生徒の実態を適切に把握し、それをもとにつけさせたい力を具体的に持つことが、児童・生徒の学びになります。このことは、「書くこと」だけでなく、授業全般にも当てはまります。つまり、教師が児童・生徒につけさせたい力を具体的に持つことが授業改善につながります。

つけさせたい力は、学習指導要領や校内研究のテーマにあります。今現在行っている実践をどのような視点で見るとかで、その意味は大きく変わります。このような成長を見据えたイメージの先に、児童・生徒の学びが存在します。学びの先の成長を願い続けることが、寒川町の教育をこれからも支えていくのです。